

怠惰にかけては勤勉な 黒沢美香のソロダンス

『薔薇の人』第16回

今、ほくはどろりとした心の中にいるんです。
 ほくは詩人になりたいたからです。
 ほくは「見者」になろうと修業中です。
 自分に合ったやり方はないでしよう。
 ほくにもほとんど説明ができません。
 「あらゆる感覚」が錯乱により未だに
 到達することです。非常な苦痛です。
 強くなる山はたがらない。全うな
 詩人になりたいたからです。ほくは
 自分か詩人だと分らないです。これは
 全くほくのせいではないです。
 「ほくが考える」というのは到達しています。
 「ほくは考えられる」と言うべきです。
 ほくというものは他人です。木杖の
 うさぎと、思っても仕方がありません。

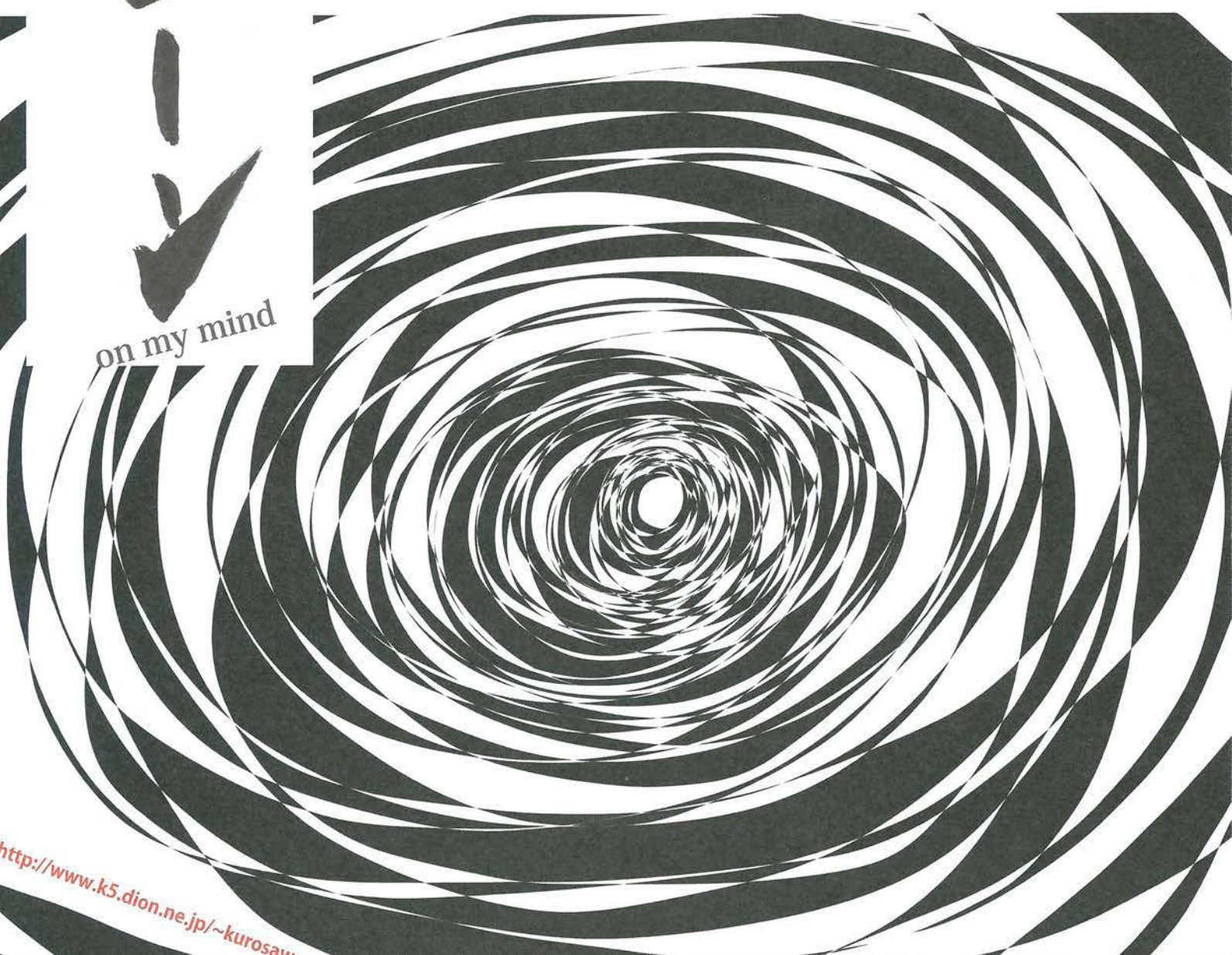
「見者の手紙」ランボー
 (門司邦雄訳)

2014年

1月16日(木)・17日(金)・18日(土)・19日(日) 両国門天ホール

メリー・ジェーン

on my mind



怠惰にかけては勤勉な黒沢美香のソロダンス『薔薇の人』第16回

メリー・ジェーン オン・マイ・マインド

振付・出演 黒沢美香

照明 木藤 歩

Public Acoustic 椎 啓

衣裳 堂本教子

小道具・演出協力 小林ともえ

演出協力 首くくり栲象

『薔薇の人』

不思議なもので身体から「ダンス」が漏れ出すと、その時点から空間に花が咲き出す。当の本人の身体はそれ迄とは別人で、花の精に化したようになるのだが、いつもそう思う。誰が踊ってもそう見える。そこで「ダンス」を「花」とたとえ、花の中でも豪華で香しい魅惑に満ちた代表ともいえる薔薇を花の代名詞とし、タイトルの「薔薇の人」とは言い換えれば「ダンスの人」、ダンスする人そのものである。ここでモチーフとなっているのは「無為」を謳歌することだろうか。勤勉と怠惰、溺愛から放棄、羞恥と溶解、混濁と清潔、という言葉が対で思い浮かぶが、それらの両層に片足づつ浸しながら部屋中を歩き回るダンス、と言える。

《1999年「薔薇の人」初演記》—黒沢美香—

黒沢美香 Mika Kurosawa

1957年横浜生まれ。5歳から両親のもとでモダンダンスを習う。1982～85年NYに滞在。当時のNYダウンタウン・ダンスシーンをリードする振付家の作品を踊る一方、ジャドソン・グループの出来事を追いかける。帰国後は「黒沢美香&ダンサーズ」と名乗り活動開始。現在は、ソロダンス『薔薇の人』シリーズ、メンバーの年齢差40歳で活動する黒沢美香&ダンサーズ、踊る大学教授陣ユニット「ミカヅキ会議」を柱に活動する傍ら、社会・地域連携プログラムに参加。舞踊コンクール第1位受賞の他、新人賞、優秀賞、舞踊批評家協会賞、日本ダンスフォーラム賞、ニムラ舞踊賞など受賞。日本のコンテンポラリーダンス界のゴッドマザーとも称されている。

<http://www.k5.dion.ne.jp/~kurosawa/>

2014年

1月16日[木]19:30開演

17日[金]19:30開演

18日[土]18:00開演

19日[日]16:00開演

(開場30分前)

【チケット】

日時指定・全席自由／各回50席

■一般：前売3,500円 当日4,000円

■学生：前売2,500円 当日3,000円

(ご来場日に学生証をご提示ください。)

※当日券の有無については、事前にお問合せください。

※リピーター割引(要予約)

複数回お申込みの方は、2回目以降2,500円/回

【ご予約・お問合せ】

■黒沢美香HP(予約フォームあり)

<http://www.k5.dion.ne.jp/~kurosawa/>

■E-mail: baranohito@gmail.com

■TEL & FAX: 03-3227-0279 (Dance in Deed!)

*【お名前(フリガナ)・日時・枚数(一般・学生)・TEL・E-mail】をお知らせください。

ランボー翻訳提供：門司邦雄 <http://kuniomonji.com>

イラスト素材：川崎ゆきお <http://www.kawasakiyukio.com/>

制作：平岡久美／ウェブデザイン：鎌田幹子／協力：シバイエンジン

主催：薔薇ノ人クラブ

助成：芸術文化振興基金 

両国門天ホール <http://www.monten.jp/>

130-0026 墨田区両国1-3-9 ムラサワビル1-1階 TEL: 03-6666-9491

【アクセス】JR総武線「両国駅」より徒歩5分

大江戸線「両国駅」A4出口より徒歩10分

